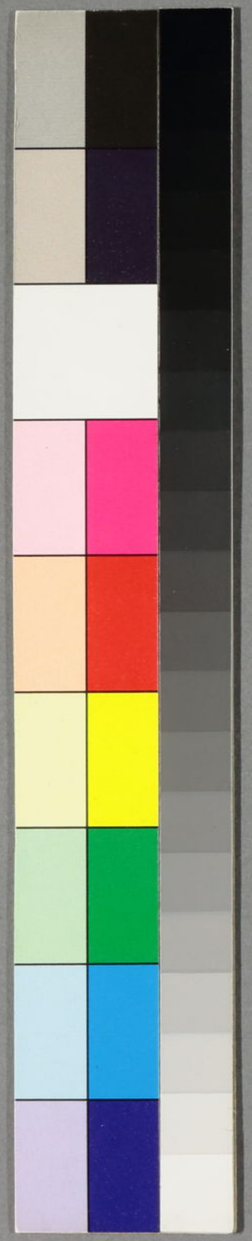
和漢朗詠集

平仮名付講釋入

上



和漢詠集

所書籍目録

東都書肆　金生堂梓

和漢詠集巻之上

春

立春　子丑　春興　春夜　子日付若菜

三月三日付桃　雪春　三月尾　閏三月

雛　蛙付蛙　雛酒　歌　梅付子梅　柳

夏

更衣　卯月　夏夜　端午　網涼　晩夏

花橘　蓮　郭公　蛍　蟬　商

春
詩文 九十七首
和歌 四十六首
哀
詩文 三十八首
和歌 二十三首
秋
詩文 九十四首
和歌 四十八首
詩文 三十二首
和歌 十四首
雜
詩文 三百八十四首
和歌 八十八首
通計
詩文 五百八十四首
和歌 二百十六首

秋

立秋　七夕　秋興　秋晚　雁
八月十五夜　付月　九月九日　付菊　九月尽
女郎花　萩　紅葉　付落葉　鹿　付鹿　出　蟋蟀
虫　擣衣
雁
初冬　冬夜　霰　雪　燈火　霜　雪
氷　付表氷　霧　佛名

和漢朗詠集卷上

春

立春
遠見霞　閑居　不待芳菲　候遠春　春雪
將春夢　惜春　春之思
池凍東頭風度窓　梅如雪紛々
柳無氣力隨波動　池有波文氷畫開
今日不知誰計會　春氷一時來
秋雨殘文寒蕊生　香火曉燈燈

▲夜のうちにそでもぬれもしぼるまで
水のさゝうねるを見るに風まさるなり
ひちてハひしてさむきをハ
▲きのふまでそゝ寒しきさもなきに
よりのゝをよめる寒を勇ゆ後しめて
○水きて田地よりのあれ出るハ
みちく水のしゝ出るくまの
えぐよへてめとをきさるハ
○寒の出るとあるさゝのゝるる風のやさ
ゆるいさきゝやをかて
いくて
○寒の紙花ゆうすりの少寒の出る梅ハ
梅のあのえぐ并少をひく
○ゝ出るきゝゝびの
えゆくくまう
まさひきあのゝ
きのふゝをぬけくゝ出るゝ

子春

氷清田地董雉雉去入枝際柳眼低
先遣和風報消息須教桃李漏春迷
東岸花開春
之梅寒流已矣
紫蕨拳人拳手蕨玉竜雉統蕨
氣暖風柳新柳柳絲絲洗洗四若類

世説明語集二

髮をもくふ
ちけくもくゝハむけとあゝふゝ
○ゝ寒のゝ
ゆゝ梅の
▲ゝ寒のゝ
さゝびゝいゝ
▲ゝ中ゝ寒の風
あゝそゝ
のゝゝ
ちゝ
○それのゝ
ゝ
○寒の
ゝ
生ゝ
○寒のゝ
ゝ
○ゝ

庭墻氣色晴沙綠林象宮桃宿雪紅
いゝくゝくゝいゝ
やゝゝゝゝ
見ゝゝゝ

春興

野茅芳花紅沙地綠楊孔雀天
歌酒家ゝ美女ゝ美人上湯表
山桃渡邪桃日曝紅粉ゝ幡門柳渡

岸柳風定柳絮飛

蘭麝く絲

春野長閑

子規鳴渡遊絮繽紛

林中花郷時雨落

外新緑成陰

笠歌秋月

思清涯春風変く情

春歌

宵燭共惜春月踏花回燈

夕年去

子日付若菜

侍松樹以慶

擬留風翠雲和

若菜

驚口初乳味

侍松根以慶

擬千年緑蔭

若菜

掃頭二月

若菜

初のひ

初の日

若菜

[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○桃花流水仙境を出ず三月の花ばなの
不中も桃花の水ありわをあらしよねんを
なぐわんとなり

○春の末月ハ三月六の節ハ三月ハ[illegible]せつ
花ばえ[illegible]

今日宴を[illegible]

三月三日 桃花

春来遍是桃花水不減当年旧渡頭

春来[illegible]三朝[illegible]千花桃李の
盛地[illegible]一日[illegible]万後[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲西[illegible]

生蓂雖絶永巴字白知地勢異魏文
[illegible]風流益志[illegible]
煙霧重迷庭同戸桃李深源似勿重
水成巴字初三日源起関乎招賢名
徽石[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○柳のをぎ[illegible]れてゆく面をほろ〳〵[illegible]
[illegible]
○曙[illegible]のかつらをあづさをとい[illegible]
いさごのうへのふ[illegible]
○老てさへ[illegible]
[illegible]
○剃髪湯と白たゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]
▲[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]

排水柳花子万弦滴掬雪古来示[illegible]

低翅河路潤蕩曉礼[illegible]

人[illegible]時[illegible]

剃白[illegible]今日好[illegible]

[illegible]

三月盡

[illegible]

風[illegible]

竹流[illegible]

○人[illegible]
[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
○[illegible]
▲[illegible]
▲[illegible]
▲[illegible]
○[illegible]

[illegible]

送春不用勅撰集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

雨

○梅の花ちるまがひにうぐひすのなくこゑはるさめのそら

○白梅のちるを惜しみて

白雪の降りかかるかと見るまでに梅の花散る春の夕べ

○梅の花ちるまがひにうぐひすのなくこゑはるさめのそら

梅の花散るまがひに鶯の鳴くこゑはるさめのそら

林学士詠集上

林学士詠柳雅象繪

柳絮

亞女扇

柳知老

大夜嵐

雲雀紅

柳宅逢時

深山月

花

花的上苑

斜月

地色

紫人家

望日堂

[illegible]

○[illegible]

○花のかげうつるとのゝそこもあをき[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○

[illegible]

▲花のちるをゆきとえすちるをゆきとえすちるをゆきとえすきものちるよりのどかなる花のちるをゆきとえすちるをゆきとえすちるをゆきとえすきものちるよりのどかなる

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

わつきまつされば一枝後るゝの風をのこしさき
ぬるをとゝ出せば多くをとゝてうまるゝ
○生花の色ハ人のこゝろ也人をまちく
ぬ人と初りへ名譽ゝ名譽ゝ花いのゝ名人を
まつきくの名ハ人と初り人
▲花の色ハ名ゝ人ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
○ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
○ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
○ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
▲ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
○ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
○ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
○ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ
▲ゝゝゝ花ハ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ色ゝ名ゝ

雲地殘雪

雪地殘雪梅花開

雪地殘雪梅花開

雪地殘雪梅花開

網涼

晩涼

竹夢法合俳諧

花橘

▲さらでだに秋仁天なるのはしき思ひ[illegible]をいかに邦よつじ非対のこの[illegible]

○ちすのその[illegible]

わをしーみ[illegible]

○ちすのまき[illegible]

さて[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

ちるときまつ[illegible]

むしの人[illegible]

蓮

風[illegible]

葉[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の老ひとかやよりなびかずあるをつひとなびく

○[illegible]山のきをとどめバ[illegible]山のきを[illegible]ろとうぶるまくやるを[illegible]

[illegible]

▲[illegible]のやろ火をわをとちの[illegible]のと[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲かれぎくの中より生じ、の人あつまりきゐる生ハ山風よハ天下の万民叶はまでもなれるひとくしてしるべしとなり

○蕭風ハ秋風なり、ちゝ涼き風と載老槃の句ところ〳〵に秋のなるき一時はなくハめるべしとなり

○鶏ハ庭にあるものゆゑ紅葉せる一枝の庭にちるまたゝく〳〵ハまさに和秋ものしきもくるさに一説に楓を鶏冠草とも鶏冠草ハ楓なり経説にも花ハ庭にふるとゝ庭にもちるハ秋風のもるもの、晩に歩れものなり人をそなり経説の学者の説

○さやうハあさやかなるべし

○うちつけハ一わさとなりとゝ

○異ハ三文字のかたちよりさる晋潘岳かくちゆゑ生じ三十二の文字面ハ二字ち生じ三十二を二色の年しるべ

○三くよあつさのさるとのこゝろんで月のすきさるく老の年ををくさる

○槐の花を和秋のあるこゝろ

蕭風涼風面裏鑿淮教寸法一時秋

鶏冠草間林ゑこの鶏冠草ハ楓なり経説にもこれ

あさ〳〵ぬしめてさやうよこんこゝねこゝを

うの野のをとまとゝ和ゝろうをぬる

うちつけよりのてあるのきこの鶏ちるし

あされもしめをしるとあるをくた

子秋

但表異ハ二字ハ去ル和秋を二色表

秋

立燈

槐花面涯歌林地桐葉風涼歌寸法

英系剥歌衣尚重晩涼潘岳菊生和

あさ〳〵こゝちくいくうをあ〳〵稀なるの○ぬる

なるく〳〵ものゝうやはたをとくすくしをを

七夕

牽牛織女巧竹年頭之形線女

二星遥逢未叙別絃絲くく水鏡

扇の涼風郷くこの

夕涼別涯元嘉毛詩槃志成

吉夜異涯元嘉毛詩槃志成

○秋の日ものいとくしをを生ハ槐の葉ハ

まゝのこゝをを衣衣もなくなるくなるを

ものこゝをくくもろ〳〵ものあを

秋のすゝさハくもろ〳〵ものくをくを

▲秋ものくをもくもあけくさの風ハ

をくしくををろくを

○わ年の紙来あくくをまくくをくん

ををををををひくうをのゆえハ竹の葉ハ

ひくくををのくををけくをがをまつけく

ものをををくを

○牛女の二星ハ一年ハ一度ハあくを秋

あ翻の紙をを〳〵なるよのくくをの金ハ

秋ををうををくを一枝をもあくをくん

くくくを風をつれくくをものをくを表ハ

○唯の表ハ二星ハつれををむ淩のくをの屋

くをの民をくをのをものをれをくくを七夕織の表ハ

をくれくくをくくを

○くれくを時の紙をくをををくをくを

ま天の川をくを紙をくををくを年民をくを

月ハなをそ〜ひかり婚ぎくれなゐての川の流よ
ゆくすえ〜

○云うなを〜きこしめすの川のさゞなみとづけて
てゆくとゝ〜ゝ中ゝ七夜のうゝ月のゆくと
まうなをもとゝてゝあゝとゝ

○時雨ゝ〜ハれゝんゝゝゝゝゝ
んゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲この川なをきゝそゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲ゝゝ一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

▲むゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○林の月ハ酒をあゝめゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○ゝゝの座ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○人の世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

河色殿波雖老人詩月那為將
風流時秋思嘉月酒粧淚
あまの川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋興

林間煖酒燒紅葉石上鼎茶煮白雲
楚思物花色水流高琴清猿叫秋
大底江山時代思若為中獨望秋月

○林の中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○風の中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○蜀の宋ハ家の名をゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

○人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

物色自悲秋人心頃刻生
中宵歲思生秋乙多波高時名相
第一場光仙家竹風雪月四
蜀宋淑色字花味想繚彩猶搖毫
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋晚

桐回夕上杉暮乙養思悲秋清可秋
望乙出月彩彩種初花泉物語声

▲小くゝ山ハ来あらぬよ
○とのゐひとつ
○秋のうき秋
○あけぬるかねむしのこゑ
○秋の月
○秋の夜もすがら
○秋の月
○秋の月
○秋の月

まさりてきこゆ　白万里のかすみぐちのく
ぢくと　こゝすみきて月のきよきかおし
○秋の池すてゝとりのゐるよ月映し　秋の風
ひやゝかるるをおぼえて　池ぶかのとゝ
○池のえもすそをよ月のてるかとおもふ
うらびかりのそこまでいまは八芦の花の白
のちよりのこゝろこゝろ
○波の間よ月のえをくしく　松の一つ白雪が
みるゝこゝろかな　月すゝしく　金風
○長安山のをうよ波ゆりゐ　玉ゝしろて
瑤池とゝかつく　八月池ろ月の中ぐ
○秋月はゆめのをうかつく　後ぐ　金
のつるゝ　月　三　のべよ月とゆゝるやハ
かぐと　細る　面の　亟ゝ
○光のきゝ　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
帰のをうハ人　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ

○社日ハ春秋の社をまつるつゐなり春社の社日ハ菜をさくるつる菊をあらハしそうの酒をわかしすびく煮を用ゆ

○九月九日菜萸をきるさひとをはらる菊酒をすすめ退ハひ〜長寿之人の神より伝〜れしうる綿祖菜を採て長きをとるとも七百歳うて十七歳のゝ〜とこの為ゝ〜ゝ〜ゝ〜

▲わが妻白く亞まくるそいづもと花中の
まれ中らんおそきまのふし枝ばかりこそ
▲上のそそあそびのきくをやきめ
くれバ花のうしくんまくる
○白髮を白川秋ぎきのすきまぎ八名まる
き拳の清白谷の二の峯ちくもとえ
うく秋ぎきのこやうるを秋風のふさる吹よ
まきごんとそ秋の重要まる牛のつのをぬく
ぎうきをうく退むとも山ゆく秋いく
○秋孤月ふくく孤をやきもる春のむ
まるせあん秋ハかくてやどにわ
○清くこくうぶ秋の月ハ文をつくる
○ふるをきくくうけをぬる秋風よ
ちくふりぶりぶりとぬのうくぎうよ
きくをひくて秋をのせをとき生き更
▲山中の袖きまきあ袖ふ
ん秋のをくを考ぶ
▲袖をつをりくてうく面くなるを
秋のをくうくみとをりくゆひのをくぶを
○ふる五ーのを袖のくひるわをよ

ひさうくのまうをうてえうくをを
わまりけりとをわゆまくをりる

九月盡

孤山清函月圓秋菊黃蘆白雁鳴

金風黃白退行塵爽氣秋風悅

頭月孤城清函月秋德白白意雅

文業樂靈白鶴來調鶴鶴和樂

ひさももらをぬてたくるうを
まくをしををけるれもも
くくををくをくをく

蘭

花以文肖蕭條拙者蜀葵葉之表蕊

枝葉豐新郭平浮掩白皇蕊葉

豐不美乎秋風吹白先敗

漸生女都施粉遍似殺人脂匂

出鶯枝寒秋絃聲乎弱遊妖嬌花意

ぬるはゆるひてあさけ〳〵よ

ぬきうすけ〳〵ゆちきうるうと

撫

松樹千年綠枯撫花一日自為榮

○日ハ枝葉の様〳〵出るとゆゑ枝葉ハ日の春より別ゆ日のみハめきゝ〳〵ものもかゝ面〳〵〳〵花めきらるゝ色ども侵限わ〳〵〳〵〳〵ものゝ〳〵ものゝ〳〵〳〵〳〵

▲ゆりくハ指せとおくの指ゆかもちゆ
えをもりりくとえくそ

○九月とうれハ秋ふかく天中の海ハ
くまぬるゆゑ人あとくさきさきをよ
秋の月のきのふづくかきてる和ひのこ
下の月ハ秋つどもうれハかちあまとを
うづめさるんをきき軍のさ月のう

○これ浜くもるく庭をもらふも月ハ秋ハ
秋どきをきうのえをもとわくわりのまの

○秋ハ秋えを秋の柳俺うどをかせくを
きくくいあるとわるほをでるれしをきを
をのるのしくわるれよりがゆるく

○枝楸の葉のかちをもるる仙て夏の
ゆうねハもしくをくをくをくうをこのせ
うくよりわつる紅葉のしのうり楸かれうり

○想藤ハふちをゆきつとうつ五をうう
わくくりきをつくをくくうをくを未葉
風芝をこのとてきをを秋をくくくを人
書雅仙ハ仙人くを丹をねくをもうくハ
をの色紅葉ま仙をくを

落葉

三秋白宮酒西長安落面酒万里白
卿園仙生蓬萊源
秋庭乎掃携友杖閑踏松間黄葉多
城柳乎挽湯搖落秋出乎乎老人心
梧楸乎中一夕之雨乎濡鶴搖黄之
牧所く紅終弥
想藤淫及杖家集賞陽く初浦遠優
極屐踏葛雅仙く葉

きくどうくるハかのえをををひるれををせん
とよあ代教をよ代せんとをう
▲こうのををこれかをそうをゆう
ハハ妹とくくをくををれちをぞま
ぬをしをををををををををををををを
▲花を大切をををう多のかくもん月
ろひをやをんを花のよをのをををを
○をきけかろををををををををををを
ハをれををををををををををををを
○黄赤夏を実緑緑を云をををををを
をををををををををををををををを
○岡ゆよわくををれををををををを
をうの彩をををををををををををを
○楸木のくを紅葉して酔るをきをの
木ハ紅をきくをのをの秋の酒酔ず猶
さやう風波ハ風の色うの波茂年の
をよ波の紅ををくをくを今をををう
うをる紅葉をうをきををくをを代をう
▲赤をもををれを木紅をををををを

紅葉

不堪紅葉を吹を芳枝又是涼風蕭西天
黄纈纈林を青紅猩猩猩猩猩猩猩猩
岡中清滅猩猩猩猩猩猩猩猩猩猩猩
外和猩猩杉間色猩猩合力猩猩猩猩
をくをもをくをもをくをくををををを
しををををををををををををををを
むをくをのををををををををををを
をくをのをををををををををををを

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

○秋の夜の月の光をかりて山の上の月の光をかりて秋の夜の月の光をかりて

▲[illegible]

○切く[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲たのめこんといふれ[illegible]

出

切く晴空下雁く海東素秋て思婦の心面夜幽人耳

素琴弟[illegible]出思若風枝未乙[illegible]掬弘

庶姫[illegible]御蓋[illegible]帝[illegible]風孔[illegible]

山鈴面時鳴自晴野亭風[illegible]

[illegible]晴[illegible]幽月[illegible]

[illegible]

▲秋の[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

鹿

[illegible]

晴[illegible]食[illegible]

[illegible]

[illegible]

蟲

可憐九月初之[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○まくらくわうきの月とあらしとの[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

○秋の夜[illegible]

○[illegible]

擣衣

八月九月正長夜千万砧聲一時

水斗星稀横北斗月小擣衣人

擣衣曉聲聞四隣

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○風のりよりつ秋のまがびつねむろ

てうつ二人のことをかりくわう月のあかつ

ちのまもうしろのうのうの肩こ

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○さゝのくりの大きさもさゝのみよりはなはだしくあるとかの人の物語をうけたまはる

○この秋おくれ咲らるる花のこゝろもひとしなみにもうくとなりのりの氣をつきて見るなりけりとあるくるびの色しるのりくむまうむ

▲いもがうゑけるはぎのうへのつゆをまのあたりの方へ出まちかまくらびやくらびれまれるひさしきその花いとをかしき

○その夜の月は映じ樣のごくろもみるせどもあかぬよ和てありてもぬさらぬごくさむさうけしさうう

人のめのまよりもれもしとい第月となる月もあはれまうるやうにうつりてしたり

▲ゆみよりゆるとぶかげはさ年も新ぬとあはれはかさまるうう

○おもうさみをまぎけぞをもつて書くしるあるとをけるの思ひ緒恨

みを夜

一叢の雲の花の秋の夜の月の中の雲

月の夜の思ひ出の後の花の上の雲

花のひかりの中のいとをはあの雲

歳暮

雲流年月沈々焼夕映和歌利刀

風雲易向人和歌業月雖老雲

しくるるけさ

煙天

あきさまもとをのうちはおのうちはかぜくるまをしきをとをしくをとをしく

○やどのはをまのくまのこゝろもまもるくをとをしく

○ひ炉火はの樹をきくくれこゝろやあるんむへはるまのこゝろまのこゝろ

○つゆのくりのひをのまをやしこ花のすくるほとのむともちくこゝろもそくこゝろ炉火のこゝろ

▲云ひざるのやうにこゝろ色とあるこゝろ

○九月川のあはのひしはをまのこゝろ

○ろづのはが秋のあはのこゝろ

○ろづのはが秋のあはのこゝろ

○ありしをのひてやあがをとこゝろ

秋の夜やのをさむさのやはしかのこゝろ

英語緑晴迎冬歌紅紅遊歌

菊女野馬雖書猟夜風光夜大逆

火無撰歌樹夜刺来紅日月

他時雖解書紅下紅日那雖歌逆

うたをひろしうくみろうくみろうくみろうくみろうくみろ

霜

三秋屋雪歌初白一歌樹歌歌紅

萬物秋歌雖逆冬時冬日夜凋年

風雪歌歌雖孤婦くくくく

[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

○[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

○[illegible]

初先[illegible]

[illegible]

[illegible]

氷

氷付　素氷

氷封水面閉　雪積林頭人有光

氷結水弦柳銀條

素氷

氷中見水多如地　雪裏尋梅入樹

氷消漁屋魚銀鱗　雪積牧場牛玉牧

胡蜜淹能金俊名　陸逸思失長恩

やまうはのこもりはいもはるるるもるるる

380
1999.12.10

○ひとさき人間世すく所きびしきこのおれ
とも朱のいろをうぐふまくむ邪病乃
所をとぶすをみくむ人生の生花此
ふこ愛がうをよと云て後の夏きをわひと
○ふれぐいえおくまをかりよ姫のあきの
夜よきぬどうぐわ月も移人ごろよ
さを什く風きさまたくきぬとのとと
ふけくうまくきこゆるとうう待ハ
さねろうもをうつちちのく時上の
擣衣の終る八月九月四更夜このなり
ぬとて絶句一章なり

蔬

蓴絵尋其根更迎長花見憲蓋

擣衣

清泉思婦秋擣帛月若風清旅行出

右二句ふる実かきく

和漢湖海集巻之上終